令和8年熊本地震

おかやまDMAT1次隊の活動報告

岡山済生会総合病院

岡山済生会総合病院　医師1看護師２調整員1



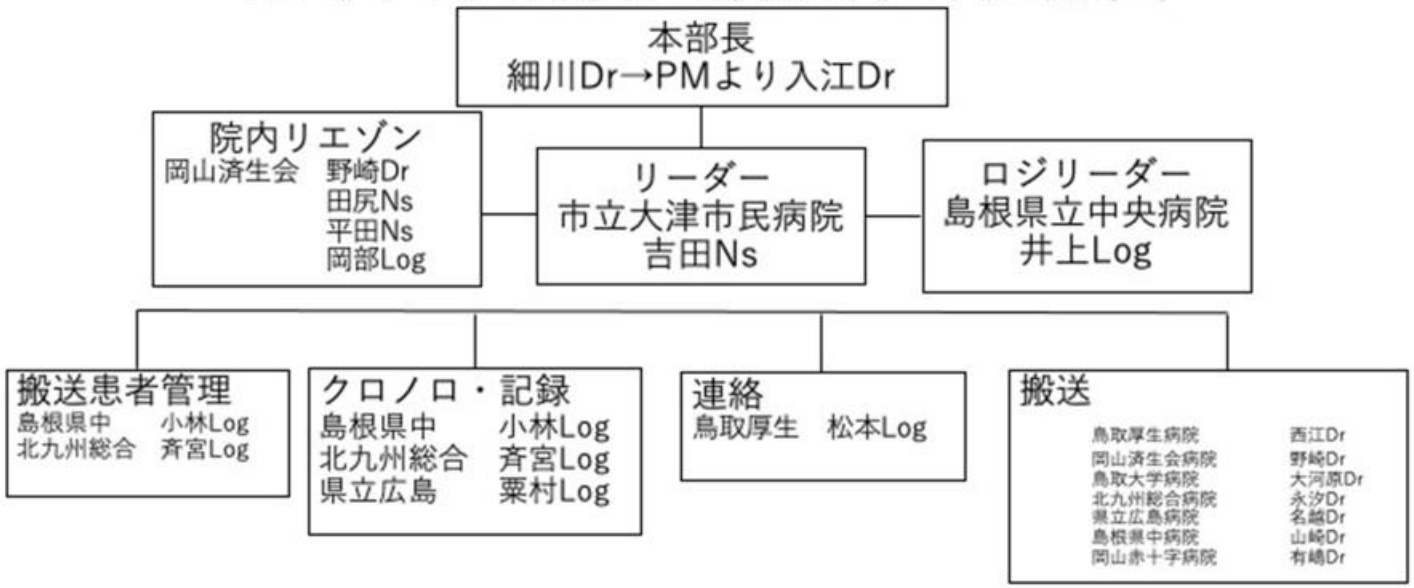
活動期間
７月３０日（木）から
８月３日（月）まで５日間

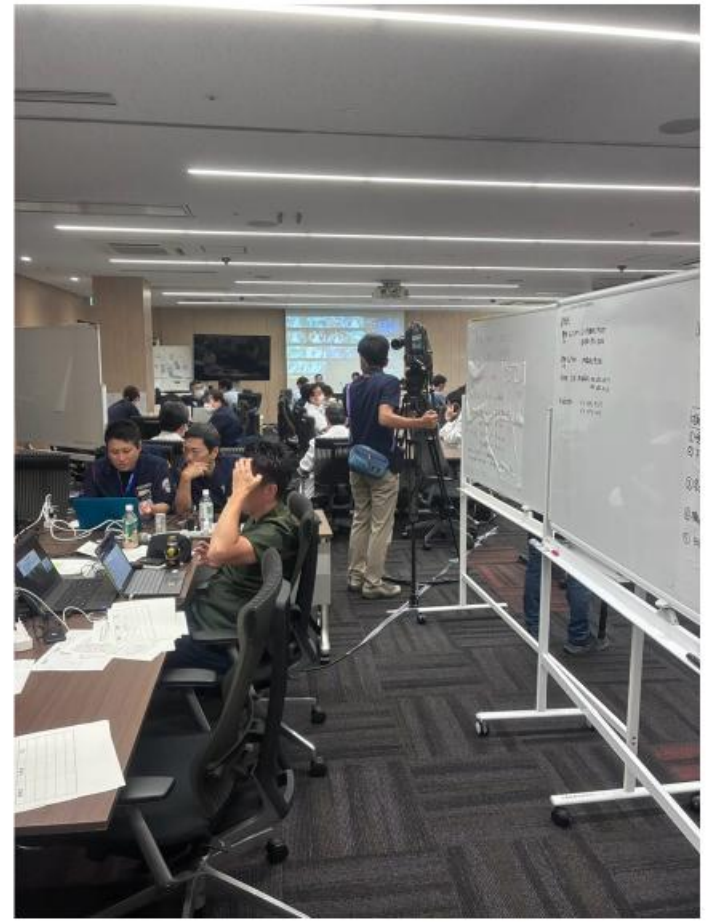
熊本県央南活動拠点本部
（済生会熊本病院内）
指揮下に入る

周辺は
電気は復旧
断水は継続

初日：被災地内の熊本大学病院を支援

熊本大学病院支援指揮所組織図





生活活動時間帯の地震で、転倒による骨折、調理中の熱傷が搬送受診患者の大多数を占めていた
院内で対応できない患者さんの転院搬送調整支援

２日目以降：避難所の情報収集と応急診療



前回の震災を教訓に建てられた防災センター（避難所）



背中のワッペンを見て声をかけてくる住民

昔からずっと変わらない避難所の風景



岡山市民病院
浜原先生より

「困っている」と声を上げられない被災者に気づくことが必要
活用できてない段ボールベッド・受水槽の無い防災センター

避難所内の支援物資と休憩スペース



公的、ボランティアによる物資支援



コントロールできない支援の量と困難な公平な分配

宇城地域保健医療福祉調整現地本部にて



現場の状況を共有し活動指揮の相談



本部から支援物資搬送のためのブリーフィング

一日の動きのまとめ

（活動場所から宿泊地迄は３７ｋｍ１時間から２時間）

７月３０日０７時出発、１６時４５分済生会熊本病院着

２０時３０分菊池市内の宿泊拠点着

３１日０６時３０分出発熊本病院経て熊本大学へ

２０時３０分病院指揮支援活動終了

8月1日０７時出発１０時４０分宇城保健所着、地域で活動

１８時５０分活動終了

2日０７時出発、０８時４０分宇城保健所着、地域で活動

１８時３０分活動終了

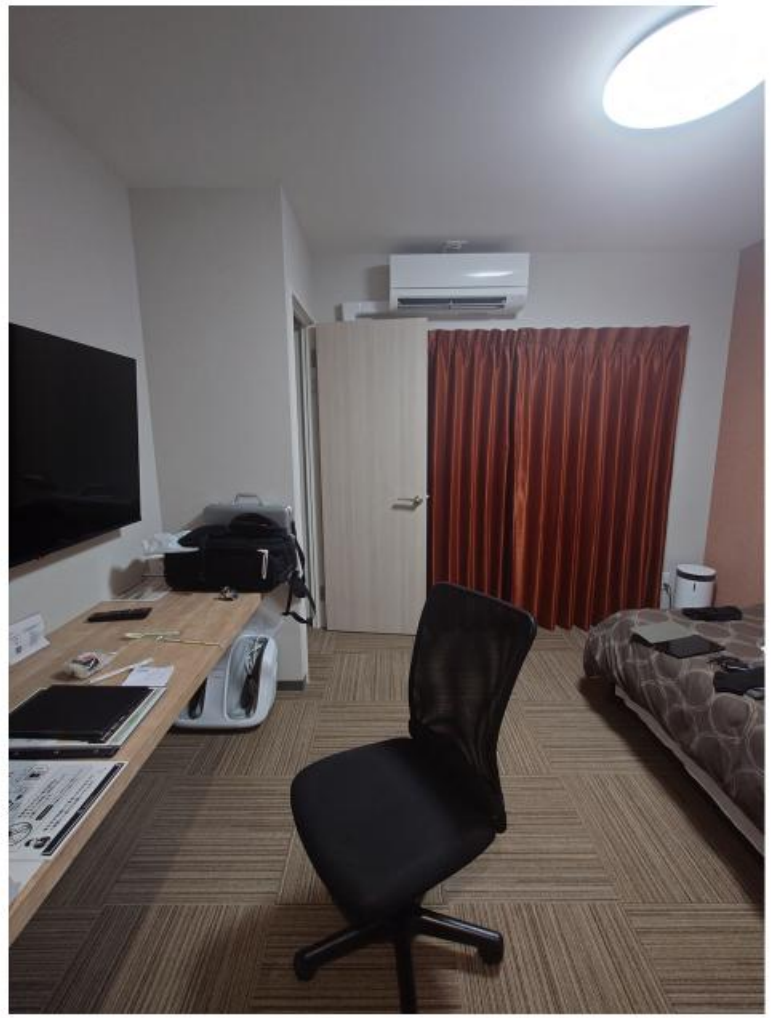
3日０９時岡山へ向け出発

病院の支援によって

- 菊池市内の宿泊施設を手配

- 電気、水道が使えるほぼ日常の生活
- 被災地から少し離れたところでは
- 比較的普通の日常光景が

- 被災者のことを考えると罪悪感も



被災者が被災地（含医療）を支えている





これまでの歩みを礎に、岡山県の未来を拓く

- おかやまDMAT連絡協議会の充実（参加部署の拡充など）
- おかやまDMAT隊員養成研修で実動できる人員を拡充
- 中国地区DMAT連絡協議会実動訓練で活動の練度を高める
- おかやま災害医療スキルアップ研修により隊員の技能維持

- 災害拠点病院連絡協議会で県内の病院へ災害に対する啓発活動
- 岡山県地震対応訓練等をより実践型に（初動と発災数日後の組み合わせなど、また保健医療福祉の部分の連携と訓練を強化）